

経営発達支援計画の概要

実施者名	武生商工会議所
実施期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日
目標	<p>地域でがんばる小規模事業者に対し全力で応援するために、支援機関としての役割を果たし、武生商工会議所が“地域の総合コーディネータ”として、経営基盤の弱い小規模事業者に対して専門家を含めたサポート支援、福井県、越前市の協力を得ながら、各支援機関との連携による経営課題解決・経営力向上に向けた支援取り組みを行う事で、より多くの元気企業を創造する。</p> <p>また、既存産業・企業の経営基盤の安定と強化、伝統産業の活性化、小売事業者の活性化などの地域経済の活性化に取り組み、小規模事業者の持続的発展支援と創業、事業承継支援などを行い、減少傾向にある地域の事業所の減少率改善を目標とする。</p>
事業内容	<p>経営発達支援事業の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の経済動向に関すること 市内の経済動向を調査・分析する事により、小規模事業所の実態把握と地域産業の現状把握と課題抽出を行い、地域経済の5年後10年後の目標と、小規模事業者に対しての効果的な支援策を推進するための基礎的な資料として有効活用し、情報提供する。 2. 経営の分析に関すること 小規模事業者の現状を把握するため、経営状況の収集・分析を行い、小規模事業者が自ら持続的な発展を目指すための「気づき」を得られるように情報提供を行う。 また、小規模事業者の持続的な発展に向けた課題を整理・抽出し、経営上の悩みに対して対応する課題抽出のための基礎的資料とする。 3. 事業計画策定支援に関すること 経営計画作成支援、事業承継支援、創業支援など、小規模事業者が経営分析により抽出された課題から導かれる「めざす経営」を実現するために、「あるべき姿・目標」を設定し、実現に向けたアクションプランの策定実施支援を伴走して行う。 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること 策定した事業計画の実行支援については、小規模事業者の計画の実行状況に応じた助言・指導を行い、より事業計画の実効性を高める事を目標に、計画のフォローアップ、商品サービスのブラッシュアップなどを行う。 5. 需要動向調査に関すること 小規模事業者の需要動向に関する情報を収集し、小規模事業者の強みを商品開発や販路開拓に活かせるように整理、分析し、経営指導の基礎資料、策定した事業計画の実効性を向上するための資料、新たな需要開拓のための資料、地域経済活性化に向けた資料として活用する。 6. 新たな需要開拓に寄与する事業に関すること 商談会、商談会、展示会への参加誘導と「越前モノづくりフェスタ」「たけふ菊人形」等の販売、商談機会の創出。「えちぜんモノづくりNET」などマッチングサイトの活用による販路開拓支援と、販路開拓に向けたセミナーや、他の支援機関などと連携する事でビジネスチャンスに結びつける。 7. 地域経済の活性化に資する取り組み まちなかのにぎわい創出事業と、中心市街地での創業支援などによる地域経済の活性化。伝統産業である地域ブランド（越前打刃物、越前和紙、越前筆筥）の活性化と、ご当地三大グルメ（越前おろしそば、ボルガライス、駅前中華そば）の観光資源としての活用によるブランド化と食のイベントを開催する。
連絡先	<p>武生商工会議所 福井県越前市塚町 101 Email = info@takefucci.or.jp 電話番号 0778-23-2020 FAX 番号 0778-23-4234</p>

(別表 1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

【越前市の概要】

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、人口は 83,762 人である。本市は、400～700m 級の山々に囲まれており、県内三大河川の一つである日野川をはじめいくつもの川が流れ、市域中央部には武生盆地が広がっている。

武生盆地には、古くから市街地が形成され市民生活の拠点となっており、気候は、夏は高温多湿、冬は降雪量が 1 m を超えることもある日本海側特有の気候である。

このような地勢条件のもと、1500 年の伝統を誇る越前和紙、刃物業界で初めて国の伝統工芸の指定を受けた越前打刃物、最近では平成 26 年に伝統産業の指定を受けた越前^{たんす}箆「越前指物」に代表されるように、越前市は古くからモノづくりが盛んな地域であり固有の地域文化が培われている。また、ハイテク産業の企業が立地し、地域産業に広がりが増し、県下第一位の製造品出荷額を誇る産業都市として発展を続けている。

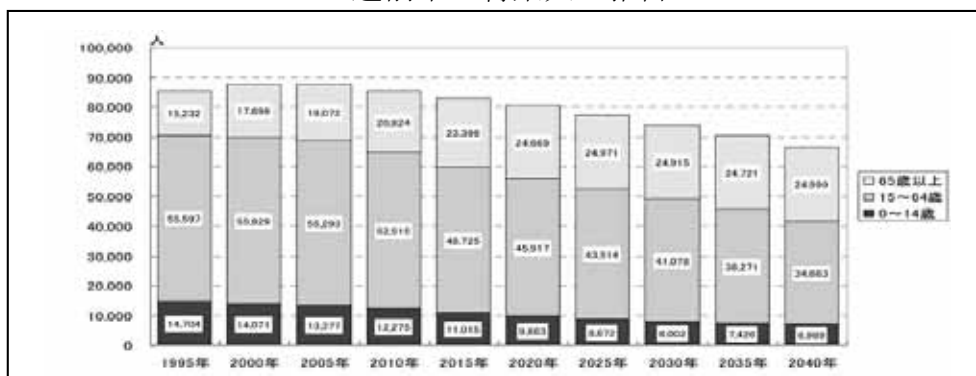
本市は、平成 17 年（2005 年）10 月 1 日に武生市、今立町、両市町が合併し、「越前市」となっている。旧武生市は、越の国と呼ばれた頃から拓けた地域で、越前国府が置かれ、政治・経済・文化の中心地として栄えた。平安時代には「源氏物語」の作者、紫式部が越前国司として赴任した父とともに多感な青春時代の一年余りを暮らした地でもある。また、旧今立町は、和歌集や写経の用紙に用いられた越前和紙の里として知られ、明治の初期の頃まで奉書紙や奉書紬の産地として和紙や繊維を扱う商店も集まり大変栄えたまちである。現在も、旧両市町のまちなかの辻や地名、行事などにその歴史と伝統の重みを感じることができる。

(1) 越前市の人口

我が国の総人口はすでにピークを過ぎ、人口減少期に入っており、加えて、平成 20 年秋以降の世界同時不況は、本市の強みである先端産業に大きな打撃を与え、平成 21 年には多くの外国人登録者を含め、1,000 人を超える人口が流出し、平成 17 年の旧両市町合併時の国勢調査値 87,742 人と比較すると 3,980 人の減少となっており、平成 32（2020）年には 80,449 人と 8 万人を割り込む寸前まで減少、さらに、平成 52（2040）年には 66,651 人にまで減少すると予測されている。また、少子高齢化の傾向も国と同様に進むことが推測される。特に中心市街地は越前市内の中でも人口減少（市全体よりも 4 倍以上の減少率）、少子高齢化（市全体よりも 14 ポイント高い高齢化率）が進んでいる。



越前市の将来人口推計



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」より

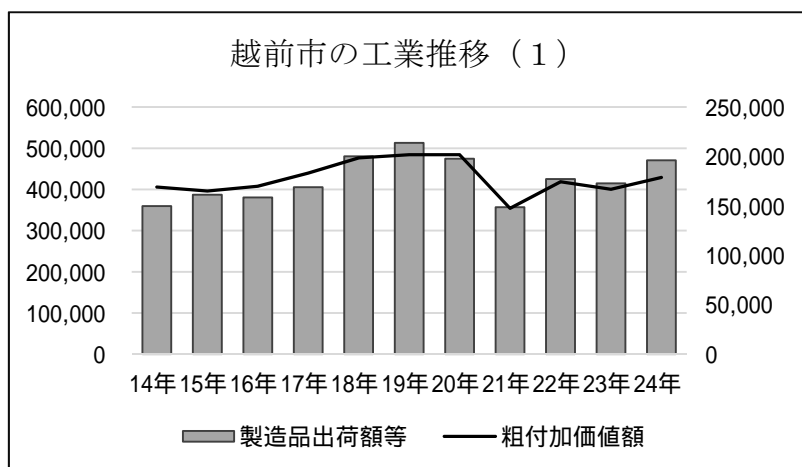
(2) 越前市の産業

① 既存産業の現状と課題

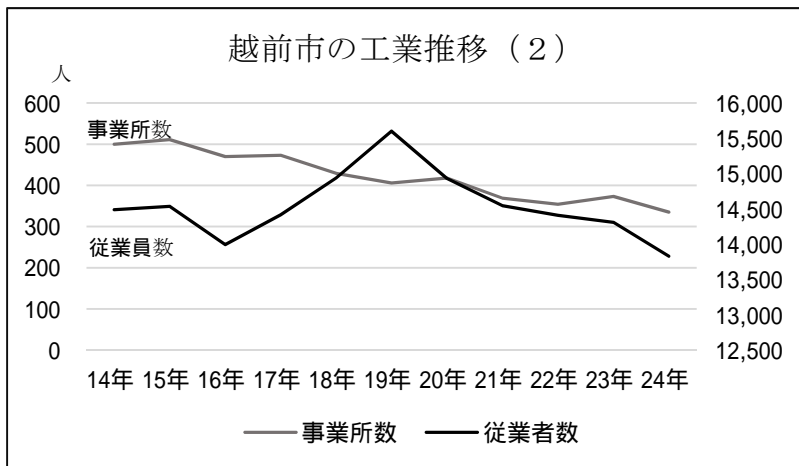
昔からモノづくりが盛んな本市は、製造業が市内純生産の産業別シェアの約4割を占め、製造品出荷額等は県内第一位で、県全体の2割強を占めている。また、本市の工業は先端技術産業から伝統産業まで、幅広い産業・業種構成となっており、国の伝統的工芸品として指定されている越前打刃物、越前和紙、越前^{たんす}箆の3つの伝統産業が存在する他地域にあまり例を見ない特異な地域でもある。

このように、伝統産業から、電子部品などの先端産業に至るまで幅広い産業が集積する“モノづくりのまち”が当市の特長であるが、近年は従業員数で4割弱、製造品出荷額で6割弱を占める技術力・競争力のある少数の大規模事業所への依存度が高く、コスト競争が厳しく付加価値が低い多くの小規模事業所との二重構造になってきている。

このような状況の中で、大規模事業所は工場増設等もあって、小規模事業者の経営環境は厳しさを増しており、小規模事業所における就労者の減少と後継者不足などの課題がある。



年次	製造品 出荷額等 (百万円)	粗付加 価値額 (百万円)
14年	359,609	169,082
15年	387,005	164,979
16年	380,421	169,861
17年	405,489	183,202
18年	480,540	198,538
19年	512,998	201,742
20年	474,530	201,838
21年	357,056	147,492
22年	425,389	174,404
23年	414,716	166,790
24年	470,895	178,861

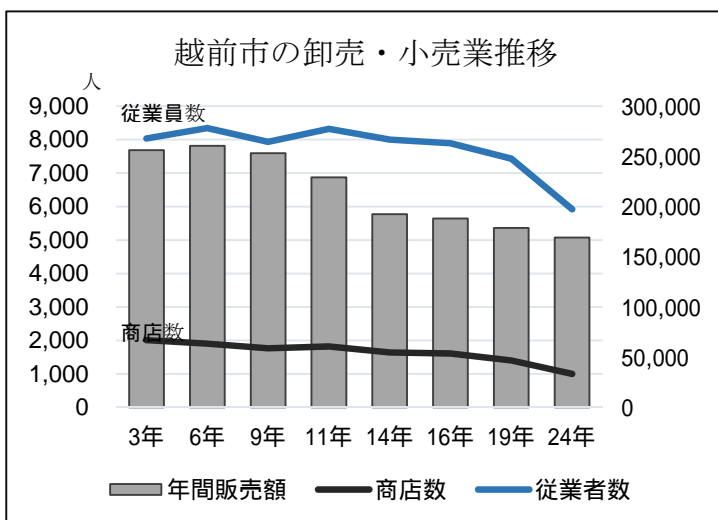


年次	事業所数	従業員数 (人)
14年	500	14,488
15年	511	14,536
16年	470	13,994
17年	473	14,415
18年	429	14,938
19年	406	15,603
20年	418	14,931
21年	369	14,545
22年	354	14,409
23年	373	14,310
24年	335	13,829

資料：「福井県の工業」「日本統計年鑑」（工業統計調査）より
 ※平成23年データは平成24年経済センサス活動調査
 (H24.2.1実施)による

②小売商業者の現状と課題

当市の商業集積は、市西部の大型ショッピングセンターを中心とした商業エリア、市東部幹線道路沿いにおける大型チェーン店を中心とした商業エリア、商店街を中心とした中心市街地エリアの3エリアに分かれている。近年は、市東部幹線道路沿いの商業集積が一段と進行する一方で、既存の商店街では小売商店数、年間販売額が減少傾向にあり、経営層の高齢化が進んでいる。



年次	商店数	従業員数 (人)	年間販売額 (百万円)
3年	2,007	8,037	256,158
6年	1,905	8,348	260,517
9年	1,765	7,935	253,160
11年	1,818	8,323	229,037
14年	1,639	8,001	192,441
16年	1,607	7,891	188,068
19年	1,400	7,433	178,646
24年	999	5,922	169,139

資料：経済産業省「商業統計調査」、
 「経済センサス活動調査」より

③伝統産業の現状と課題

人口8万人都市で三つの伝統産業を抱える全国的にもあまり例を見ない町である。越前打刃物は、最盛期の平成8年に比べ、生産高が約6割、事業所数は約5割にまで減少しており、越前指物、家具建具の事業所数・出荷額は、10年前と比べ5割弱減少している。また越前和紙は、新たな技術、製品開発などに取り組んでいるものの、最盛期の平成2年に比べ、生産高が約4割に減少し、事業所数も約7割にまで減少している。このように伝統産業は、需要の減少、職人の高齢化、後継者不足により、事業全体の縮小が進んでいる。

【 地域の課題 】

以上のように、当市における課題としては、先端産業から伝統産業まで、本市の企業が保有する既存技術や新技術を基にした新たな需要開拓、販路開拓のための“独自技術・商品の創造・開発、海外市場への展開、経営力強化”が課題としてあげられる。

また、人口減少・少子高齢化の中での地域経済の活性化を図るため、就労人口の確保と後継者育成が重要である。特に中心市街地では商店街の集客力の低下が顕著であり、なかでも商店街を構成する個店の活性化が急務となっていることから、大型ショッピングセンターとの共生、差別化を両立させるため、個性的で魅力ある店づくりと合わせて、創業・事業承継の促進が大きな課題である。

【 経営発達支援計画事業の推進と目標 】

上記の現状および課題を踏まえ、地域で頑張る小規模事業者に対し全力で応援するために、支援機関としての役割を着実に果たし、武生商工会議所が“地域の総合コーディネーター”としての存在意義を発揮し、地域の経営基盤の弱い小規模事業者の事業活動を総合支援するため、専門家を含めたサポート支援を行い、福井県、越前市、各支援機関とも連携し、企業の経営課題解決・経営力向上に向けた支援取り組みを行うことにより多くの元気企業を創造することを目標とする。

地域経済活性化の拠点としての役割を果たすべく、幅広い産業集積を誇る当市の特性を最大限活かした産業振興イベントに取り組み、地域資源の活用や販路拡大のプラン構築等を支援するほか、連携協定を締結している（独）中小企業基盤整備機構北陸本部、地元大学と連携し、経営者の意識改革や総合経営力の向上、円滑な事業継承を推進することを目標とする。

また、当市観光の柱である「たけふ菊人形」、産業振興イベント「越前モノづくりフェスタ」の開催など各種産業・観光振興イベントに取り組み、市内交流人口の増加を図り、来場者・観光客を中心市街地に誘導する仕組みをつくりや中心市街地の賑わいの創出と活性化により、小売商業者の集客力の向上・販売促進等を継続して支援することを目標とする。

上記課題の克服へ向けて、既存産業・企業の経営基盤の安定と強化、伝統産業の活性化、小売商業者の活性化などの地域経済の活性化に取り組み、小規模事業者の持続的発展支援と創業、事業承継支援の推進による、地域活力の維持と発展により実施計画期間中である5年間、その後の10年間に減少傾向にある地域の事業所数の減少率を5ポイント程度改善方向へ持っていくことを目標とする。

経営発達支援事業の内容及び実施期間

(1) 経営発達支援事業の実施期間

(平成27年4月1日～平成32年3月31日)

(2) 経営発達支援事業の内容

【地域の経済動向調査に関する事】・・・【指針③】

各種調査を活用した地域の経済動向に関する情報の収集、整理、分析及び提供

【経営状況の分析に関する事】・・・【指針①】

小規模事業者の販売する商品又は提供する役務の内容、保有する技術又はノウハウ、従業員等の経営資源の内容、財務の内容その他の経営状況の分析

【事業計画策定支援に関する事】・・・【指針②】

経営状況の分析結果に基づき、需要を見据えた事業計画を策定するための指導・助言

【事業計画策定後の実施支援に関する事】・・・【指針②】

事業計画に従って行われる事業の実施に関し、必要な伴走型の指導・助言

【需要動向調査に関する事】・・・【指針③】

小規模事業者の販売する商品又は提供する役務の需要動向に関する情報収集、整理、分析及び提供

【新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事】・・・【指針④】

マスメディア、各種広報誌等による広報、商談会、展示会、販売会等の開催又は参加、ホームページ、ソーシャルメディア等のITの活用等、需要の開拓に寄与する事業

経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関する事【指針】

市内の経済動向を調査・分析することにより、市内企業の経営活動の動き・様子及び直面している経営上の問題点などの基本的な事項や、時流に応じたトピックスについての意見や情報などを把握し、小規模事業者と地域経済の5年後・10年後の目標と、小規模事業者に対しての適切かつ効果的な支援策を推進するための基礎的な資料とする。

【事業内容】

(1) 経済動向調査

3か月ごとに管内企業500社を対象に地域の経済動向についてアンケート調査を行い、地域の経済動向や業種ごとに分析を行う。

調査項目：業況・売上・採算・仕入・資金繰りの状況・業界として当面する問題など

(2) 整理・分析

分析にあたっては、各種統計調査(日本商工会議所のL O B O調査、商業・工業統計調査、家計調査、人口動態調査等)の結果を活用し、全国データとの比較分析のもと地域の状況、実態の把握を行う。また、市内の小規模事業所数、製造事業所、伝統産業の事業所数や小売商業などの業種ごとの比率、推移を調査分析し、今後の指針、指導目標に設定する。

(3) 調査結果の活用方法

調査結果は会報等にて公表し、小規模事業者に景気情報として提供するものとし、経営に必要な環境情報として、巡回・窓口相談時に提供していく。

(4) 伝統産業実態調査

当市産業の特徴である「越前打刃物」「越前和紙」「越前^{たんす}箆」の3つの伝統産業について、各組合及び対象となる小規模事業者に対してヒアリングによる経営実態調査を行い、伝統産業の現状把握と課題抽出を行う。

調査項目：業況・売上・採算・後継者・業界として当面する問題など

(5) 商業・サービス業実態調査

商店街等に対してヒアリングによる消費・需要動向調査を行い、県内外のデータとの比較分析を行い、課題抽出を行う。

調査項目：業況・売上・仕入・客単価・資金繰りの状況・後継者・業界として当面する問題など

【目標】

内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31
管内 500 社景況調査(四半期)	4	4	4	4	4	4
巡回訪問ヒアリング	100	150	150	150	150	150
景況調査の分析	4	5	5	5	5	5

2. 経営状況の分析に関すること【指針】

小規模事業者の現状を把握するため、経営資源や財務内容、経営状況の収集・分析を行うことで、小規模事業者が自ら持続的発展を目指すための『気づき』を得られるよう効果的な事業計画策定へ向けての情報提供を行う。

また小規模事業者の課題を整理・抽出し、中小企業基盤整備機構、福井県よろず支援拠点等と連携及びミラサゴ専門家を活用、より効果的なサポート体制の構築により、悩める小規模事業者の持続的発展に向けた支援を継続的に行っていく。

【事業内容】

小規模事業者が保有する商品、資産、ノウハウ・伝承された職人の技術など、ヒト、モノ、カネに関わる経営資源や財務内容を分析することで、小規模事業者が抱える経営課題を抽出する。

(1) 巡回訪問・窓口相談を通しての経営情報の把握

巡回訪問・窓口相談でのヒアリングにて、小規模事業者の定量定性データを蓄積、分析できるような仕組みを構築し、小規模事業者の経営状況を把握する。

(具体的な手段)

・経営分析チェックシートの活用による実態把握

商工会議所の経営指導員や職員が訪問時に経営分析ができるような経営分析チェックシートを作成する。指導員や職員によってバラつきがあるヒアリングレベルを、ある一定の基準まで統一するために、小規模事業者の状況に合わせて従業員、人材

育成、後継者といった経営基本、市場の動向や、売れている商品、売れてない商品、新規顧客の開拓といった市場と顧客情報、また、売り上げと利益の把握、3か月後の資金繰りなどの財務・会計情報、給与や賞与などの決定基準と社員教育計画などの人事労務情報などのヒアリング項目を設定する。

ヒアリング項目：

小規模事業者の 経営レベル	ヒアリング項目
レベル1	数値ではなく定性的な情報のチェック (事業環境・商品・顧客等)
レベル2	上記チェックに加え、原価率、販管费率等の損益計算書に関わる重要事項
レベル3	上記チェックに加え、流動比率、自己資本比率等の貸借対照表に関わる重要事項

・経営分析、情報の蓄積

上記ヒアリングシートを基に経営分析を行い、現在利用している基幹システム（T O A S）を活用し、経営資源などの情報を整理、蓄積するとともに、後記のⅢ 2. 経営指導員の資質向上に関することに記入されている「支援ノウハウ連絡会」において情報共有を徹底する。

整理項目：

項目	内容
定量性分析	中小基盤整備機構が運用する「経営自己診断システム」を活用し、財務諸表分析だけではなく、商品、市場・顧客・人事労務といった経営に関する基本情報の分析結果を登録する
定性性分析	自社の強み・弱み・機会・脅威を整理する

(2) 外部専門家と連携した分析

より専門的な分析が必要な場合は、当所が委嘱している専門相談員（中小企業診断士、税理士、ITコーディネータなど）やミラサゴ専門家を活用、また日本政策金融公庫、中小企業基盤整備機構、福井県よろず支援拠点等と連携して、小規模事業者の現状把握と分析を行い、課題解決に向けた支援を継続的に行う。

(3) 分析結果の活用方法

巡回や窓口にて、前記の経営分析チェックシートを活用し、小規模事業者の経営状況を把握。分析専門家や当所が委嘱している専門相談員、連携している他の支援機関等と連携して、小規模事業者の業種、地域、規模による情報と経営分析結果を提供、事業計画を作成する上での基礎資料として活用し指導助言を行い、悩める小規模事業者の課題解決に向けた支援を継続的に行っていく。

【目標】

支援内容	現状	27年度 4/1～ 3/31	28年度 4/1～ 3/31	29年度 4/1～ 3/31	30年度 4/1～ 3/31	31年度 4/1～ 3/31
支援施策 経営分析 情報提供のセミナー等	1	3	3	3	3	3
巡回訪問件数	500	800	800	800	800	800
経営分析の件数	45	50	60	70	80	100

3．事業計画策定支援に関すること【指針】

上記2で抽出された課題から導かれる小規模事業者が「めざす経営」を実現するため、「あるべき姿・目標」を設定し、小規模事業者とともに実現に向けたアクションプランの策定・実施支援を伴走して行う。

また、創業及び事業承継を支援し、新規創業者の掘り起しや廃業並びに廃業予備軍とされる事業者の減少を図り、事業所数の減少を食い止める。

【事業内容】

(経営改善・経営革新に関する事業計画策定)

(1) 経営計画作成支援セミナーの開催

小規模事業者が取り組む「新商品（サービス）の展開」「経営革新」「経営改善計画作成」等に関するセミナーを開催し、商品の販売方法、経営戦略の立て方、資金計画の立て方などの手法を身につける中で、“今やるべきこと”の順位付けと“目標設定”を促し、課題解決のためのビジネスプラン策定に結び付ける。

(2) 国・県・市の支援施策の活用

上記（1）を通じて、個別に計画策定の支援を行い、合わせて経営発達支援融資制度や新設備貸与制度等の融資制度や補助金等の情報を提供及び活用の促進を図る。また融資制度・補助金等の活用にあたっては、必要な手続き（申請等）と合わせて、ビジネスプランの策定支援を行い、策定する計画がより効果の上がるように導く。

(3) 商品・サービスの魅力向上のための支援

需要に応じた商品・サービスを提供するため、自社の商品・サービスの強み（魅力）の向上を促し、セミナーの開催や、巡回指導時に助言・指導を行い、商品・サービスの魅力向上を図る。

小売・サービス業については、自社の強み・魅力（商品・サービス）活かした店づくりを促し、個性的な「店舗」「商品・サービス」づくりのための助言・指導を行う。

(4) 伝統産業のブランド力向上のための支援

伝統産業（越前打刃物・越前和紙・越前^{だんす}箆）については、中小企業基盤整備機構、福井県、越前市や福井県よろず支援拠点などの他の支援機関と連携しながら、越前ブランドをコンセプトとした「商品化（視覚化）計画」を進めるため個別に支援し、訴求力、営業力の向上を図り、“ブランド化”を図る。

(創業に関する事業計画策定)

(1) 創業支援セミナーの開催

創業予定者または創業間もない方を対象とした創業支援セミナーを通じて、「ヒト(人材・スキル)」「モノ(商品・設備)」「カネ(必要なコスト・投資資金)」は何かを整理し、経営資源の活用法等の必要な基礎知識の習得を図る。

(2) 国・県・市の支援施策の活用

上記(1)の受講者を中心に個別の事業計画策定の支援を行い、合わせて創業融資制度や補助金等の情報を提供する。また支援施策を活用にあたっては、必要な手続き(申請等)を指導助言し、計画の実効性を高める。

(事業承継に関する事業計画策定)

(1) 事業承継セミナーの開催

承継の連携ミスマッチにより廃業となる事の無いように、円滑な事業承継を目指し、「経営計画策定」や「経営資源の活用法」等のセミナーを通じて、経営者として必要な知識の習得を図る。

(2) 伝統産業従事者の育成

伝統産業(越前打刃物・越前和紙・越前^{だんす}箆)については、5年後 10年後にも地域ブランドとして活躍できるように、中小企業基盤整備機構、福井県、越前市や福井県よろず支援拠点などの他の支援機関と連携しながら、技術を応用した商品開発・販路開拓を促し、従事者(職人さん)の意識改革や若手職人の育成について個別支援を行い、事業の持続的発展を目指す。

【目標】

支援内容	現状	27年度 4/1~ 3/31	28年度 4/1~ 3/31	29年度 4/1~ 3/31	30年度 4/1~ 3/31	31年度 4/1~ 3/31
経営計画作成支援セミナー・説明会開催回数	2	2	2	2	2	2
経営計画作成個別相談会	13	18	20	25	30	35
経営計画策定支援事業者数	10	15	18	22	26	30
経営発達支援融資制度推薦	-	5	8	10	10	15
創業セミナー開催回数	0	3	3	3	3	3
受講者	0	15	15	15	20	20
創業支援者数	5	8	10	10	15	15
事業承継セミナー開催回数	0	1	1	1	1	1
受講者数	0	30	30	30	30	30
事業承継支援者数	3	5	8	12	15	20

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針】

策定した事業計画の実行については、小規模事業者の計画の実施状況に応じた助言・指導を行い、より事業計画の実効性を高めることを目標とする。

【事業内容】

(経営改善・経営革新計画のフォローアップ)

(1) 計画策定後のフォローアップ

経営指導員による定期面談により、策定した計画の実施状況、成果内容のヒアリングを行う。事業の状況については、新規顧客獲得数・売上（販売数量）・経費削減等の項目（数値）を確認し、計画の達成度合いをはかる。

また数値変動の理由や事業計画の取組み方を分析し、持続的発展に向けて計画変更などについて指導・助言を行うとともに、支援制度の広報・案内による情報を提供する。

(2) 「商品・サービス」のブラッシュアップ

自社の商品・サービスの魅力を向上させる取組みの成果について、需要に応じた商品・サービスになっているかを確認するため、取引先・消費者の反応を確認及び分析を行い、「商品・サービス」のブラッシュアップを図るための指導・助言を行う。

(創業・事業承継計画のフォローアップ)

(1) フォローアップ巡回並びにフォローアップセミナーの開催

経営指導員による定期面談により、創業後、事業承継後の事業の状況、成果内容のヒアリングを行う。事業の状況については、新規顧客獲得数・売上（販売数量）・経費等の項目（数値）等を確認し、計画の達成度合いをはかり、事業計画の取組み方を分析し、持続的発展に向けての計画変更などについて指導・助言を行うとともに、適宜最適な支援制度の情報を提供する。

【目標】

支援内容	現状	27年度 4/1～ 3/31	28年度 4/1～ 3/31	29年度 4/1～ 3/31	30年度 4/1～ 3/31	31年度 4/1～ 3/31
経営計画策定支援事業者数	10	15	18	22	26	30
経営計画策定 フォローアップ支援数	-	10	25	50	70	90
経営発達支援融資など 融資フォローアップ	-	3	10	30	40	50
創業支援者数（再掲）	5	8	10	10	15	15
事業承継支援者数（再掲）	3	5	8	12	15	20
創業支援、事業承継支援 フォローアップ支援数	0	8	21	25	30	40

5．需要動向調査に関すること【指針】

小規模事業者が販売する商品や提供する役務、サービスについての需要動向に関する情報を収集し、整理・分析することは、策定した事業計画の実効性を向上し、販路開拓するためにも有効な手法である。

しかしながら、現状では小規模事業者において需要動向に対する意識も低く、経験や勘による経営をしており、需要動向の手法、活用の仕方を、セミナーを開催する事で意識

を持っていただく。

また、収集した情報は巡回訪問・窓口相談等で面談する小規模事業者の業種、規模、商品、提供する役務サービスに応じた必要な情報に分類整理して、必要とする小規模事業者に提供し、小規模事業者が気づいていない新たな顧客開拓や販路開拓、新商品開発、新分野への進出、参入などの基礎資料として活用するとともに、経営指導の基礎資料、今後の事業計画の策定のための基礎資料、新たな需要開拓のための資料、地域経済活性化に向けた参考資料として活用する。

【事業内容】

(情報収集の手段)

(1) 青年経営者である青年部からの情報収集

若手経営者としての感性と消費者としての感性から導き出せる消費動向は非常に参考となる情報なので、やる気のある若い世代の中心である商工会議所青年部のメンバーとともに、世代別の需要動向について、定期的な定例会において聞き取り、アンケート調査を実施し、情報の収集を行う。

(2) 職員自ら販売する特産品・名産品の動向情報の収集

商工会議所の職員が販売員となり、地域の特産品（伝統工芸品を含む）、銘菓を直接消費者に販売する「たけふ菊人形のおみやげ横丁」事業において、消費者（来場者）から購入動機等を直接聞き取りし、消費者の動向、消費マインド、売れ筋商品の傾向、数量、価格、ニーズ等の情報を収集する。

(3) 展示会を活用した出口アンケート調査

当所の販路開拓支援事業である、「越前ものづくりフェスタ」において、消費者ニーズをつかむため、無作為抽出による出口アンケート調査を実施し、来場目的、購入動機、購入価格等の情報と消費者のニーズを収集する。

(4) セミナーの開催による情報の収集

市場動向や「売れ筋商品（サービス）名」等のトレンド情報や、「数量」「価格帯」「サイズ」等の消費者ニーズなどに精通した専門家によるセミナーを開催し、最新情報や調査方法、活用方法を小規模事業者に提供することで、需要動向に関する情報の必要性について意識を高める機会とする。

(5) その他の情報収集

国や業界団体が公表する需要動向調査をはじめ、業界紙（日経産業新聞、流通新聞、日経テレコム、帝国データバンクなど）を活用した業界動向・トピックス等の最新のトレンド情報、流通情報などから売れ筋商品情報等を収集する。

(6) 伝統産業の需要動向調査

3つの伝統産業「越前打刃物」「越前和紙」「越前^{たんす}箆

筒」については、対象とするエリアが広いため、各産地組合と事業者が把握している需要に関する売れ筋商品、価格帯、数量、サイズ、品評会、展示会での注目度等の情報を取集し、ミラサポなどの専門家の把握している情報と照らし合わせて、小規模事業者が知りたい情報としてまとめ、地域外へ発信できるブランドとしてデザイン力や技術力、マーケティングの強化のた

めの情報とする。

(収集した情報の整理・分析と活用方法)

- (1) 収集した情報については、業種、事業規模、地域、購入者層等の情報を、提供する商品・サービスごとに特徴を見い出しながらカテゴリーごとに分類整理し分析を行い、他の連携している支援機関、ミラサポの専門家等と連携しての分析も行き、個別企業支援に役立てる。
- (2) 分析結果は、商工会議所の経営指導員や職員が共有するために毎週開催する「支援ノウハウ連絡会」を開催し、小規模事業者に提供する仕組みを構築するとともに、情報を取集する際の個々の職員の能力による密度の差が生じないように指導していく。
- (3) 「たけふ菊人形おみやげ横丁」「越前モノづくりフェスタ」等のイベント・展示会での伝統工芸品を含む特産品、名産品、お土産などの分野の収集した情報は、既存の商品の売り上げ要因と、今後売れるであろう商品開発等の情報として整理分析し、出展する事業者へフィードバックする。
- (4) 収集した情報を分析した結果に基づき、中小企業基盤整備機構、福井県、越前市や福井県よろず支援拠点などの他の支援機関と連携しながら経営指導の基礎資料、今後の事業計画の策定のための基礎資料、地域経済活性化に向けた参考資料、新たな需要開拓・マーケティングのための資料として活用するとともに、今後のマーケティング支援に結びつける。
- (5) 分析結果は、経営指導員の巡回訪問などの際に、他の小規模事業者へ情報提供していくとともに、当所のホームページや会報等のレポート記事、新聞などのマスコミ媒体を活用して小規模事業者へ情報を提供する。

【目標】

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31	4/1～ 3/31
情報収集並びに情報提供のためのセミナー等	1	3	3	3	3	3
イベント・展示会を活用しての情報収集	2	2	2	2	2	2
需要動向調査と整理分析	0	1	1	1	1	1
巡回訪問件数	500	800	800	800	800	800

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針】

新たな需要開拓を目的として、マスメディアなどを利用した広報や、展示会・即売会の開催やWEB等を活用し、需要の開拓を促進するための事業を実施する。

【事業内容】

- (1) 「越前モノづくりフェスタ」の開催

当市が誇る伝統産業から先端産業まで元気なモノづくり企業の魅力を“越前ブランド”として県内外へ紹介する展示会を開催し、小規模事業者の出展ブースを通じて、

受注引き合いの拡充や取り扱う商品の認知度向上を図る。

(2) 「えちぜんモノづくりNET」の運用

越前市とともに管理運用している「えちぜんモノづくりNET」において、小規模事業者の事業内容、主要製品、優れた技術等の情報を掲載する地域の企業データベースとであるビジネスマッチングサイトとし、技術連携や共同開発を促し、新たなビジネスチャンスを目指すため企業間マッチングの促進を図り、新たな販路を開拓する。

(3) 「たけふ菊人形」会場内特産品売場の設置

10月上旬から11月上旬に開催される観光イベント「たけふ菊人形」会場内に特産品販売場を設置し、小規模事業者が取り扱う商品（食材・食品・おみやげ類）の地域外への認知度向上を図り、新たな需要に結びつけるとともに、観光客の嗜好、ニーズ情報についての情報提供を行う。

(4) 地区外商談会出展支援

小規模事業者に対して、消費者ニーズの収集などビジネスチャンスに結びつけるため、県内外の各支援機関、または連携する中小企業基盤機構等の主催するイベント展示会、商談会、東京や大阪などの様々なイベント・商談会の情報提供並びに出展するブース設営、商品ディスプレイなどの展示手法などの出展支援を行う。

【目標】

主催イベントの開催回数・来場者数・出展企業数、県内外イベント出展支援者数、越前モノづくりNET登録者数を指標として目標に掲げる

項目	現状	27年度 4/1～ 3/31	28年度 4/1～ 3/31	29年度 4/1～ 3/31	30年度 4/1～ 3/31	31年度 4/1～ 3/31
モノづくりフェスタ開催回数	1	1	1	1	1	1
来場者数	66,500	66,500	66,500	66,500	66,500	66,500
出展企業数	164	164	164	164	164	164
えちぜんモノづくりNET 登録者数	321	321	321	321	321	321
たけふ菊人形出展事業所数	65	65	65	65	65	65
来場者数(人)	84,517	88,000	99,000	85,000	88,000	90,000
地区外商談会出展支援企業数	9	15	15	20	20	20

・地域経済の活性化に資する取組

越前市、越前市観光協会、越前市中心市街地活性化協議会、株式会社まちづくり武生等と相互連携し、中心市街地の活性化及び当市の観光資源（伝統産業を含んだ歴史と文化、食文化など）を活用した地域経済活性化の方向性を検討する。

検討した方向性を踏まえ「たけふ菊人形」などの観光イベントや、「武生にぎわい市」などの中心市街地のにぎわい創出事業に取り組み、地域の多様な魅力を創出し、地域のブランド化の推進と地域経済の活性化を図る事業を展開する。

また、北陸新幹線開業により現在市内に設置予定の「南越駅（仮称）」の周辺整備計

画について、越前市と産業振興について情報を共有し、交流人口の拡大に向けた取り組みや中心市街地への観光客の誘客など今後の地域経済活性化について検討する。

【事業内容】

- (1) 当所のほか、越前市と越前市観光協会、商店街等で構成される、中心市街地活性化協議会において、中心市街地の将来を見据えた魅力ある街づくりについて検討する。
- (2) 中心市街地のにぎわい創出を目的とした「たけふ賑わい市」を越前市、株式会社まちづくり武生、地元商店街と連携して、中心市街地にある白壁の蔵が立ち並ぶ「蔵の辻」において定期的に開催することで、中心市街地のにぎわい創出事業を展開する。
- (3) 越前市の文化的歴史と伝統産業（越前^{たんす}箆笥・越前打刃物）が保有する高いクオリティを市内外にPRする事を目的に、日本に古来から伝わる、「日本式婚礼」の一要素である「昭和の花嫁行列」を模した地域イベント事業を開催し、地域のブランド化を推進する。
- (4) 本市が発祥の地である「越前おろしそば」「ボルガライス」「駅前中華そば」の三大ご当地グルメを観光資源として活用し、越前市、越前市観光協会と連携して、食に関するイベントを開催し、三大グルメのブランド化を図る事業を展開する。
- (5) 平成28年に65回を迎える西日本最大級の菊花イベント「たけふ菊人形」において、市内交流人口の増加に向けた内容の充実を図るとともに、越前市、越前市観光協会と連携して、来場者・観光客を中心市街地のまちなかへ誘導する仕組み（まちなか観光コース等）を作り、商店街等の消費拡大とまちなか経済の活性化に取り組む。
- (6) 「越前ブランド」としての魅力向上をめざし、伝統産業（越前打刃物、越前和紙、越前^{たんす}箆笥）への関心を深める事を目的に、各産地組合や越前市と連携して越前モノづくりフェスタの会場内で、次世代を担う子供たちを対象に「モノづくり体験・職業体験」等のイベントを開催する。

【目標】

中心市街地活性化協議会開催数、蔵の辻での賑わい市開催数、たけふ菊人形来場者数、昭和の花嫁行列来場者数を指標として目標に掲げる。

支援内容	現状	27年度 4/1～ 3/31	28年度 4/1～ 3/31	29年度 4/1～ 3/31	30年度 4/1～ 3/31	31年度 4/1～ 3/31
中心市街地活性化協議会	2回	3回	3回	3回	3回	3回
賑わい市開催回数	10	10	10	10	10	10
たけふ菊人形来場者数	84,517	88,000	99,000	85,000	88,000	90,000
昭和の花嫁行列来場者数	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000

・経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

- ・支援ノウハウ研修

福井県商工会議所連合会が実施する経営指導員等研修会に参加し、小規模事業者支援ノウハウ、小規模事業者を取り巻く環境の変化などの情報交換に取り組むとともに、近畿ブロック並びに福井県内での各商工会議所の事務局長と相談所長が集う会議に参加することで、地域内の情報交換と、近畿圏内と全国の先進的な支援ノウハウ、支援の現状について情報交換を行う。

・市、金融機関、大学その他の支援機関等との情報交換

当商工会議所は越前市並びに技術系の福井大学、福井工業大学、福井工業高等専門学校と地域経済活性化のための相互協力を図るため地域連携協定を締結しており、さらに経営革新等認定支援機関として連携をしている金融機関とは、定期的に市内の小規模事業者の現況についての情報交換を行い、資金繰りの状況を調査し、小規模企業指導のための情報として分析し、小規模事業者へ支援策として還元する。

・よろず支援拠点との情報交換会

毎週相談日を設定し、武生商工会議所で開催しているよろず支援拠点相談日に小規模事業者からの相談案件については、よろず支援拠点と連携して協力し合う事で専門的な支援ノウハウを受けて支援能力の向上に努める。

・その他情報交換会

地区内の青色申告事業者が集まる武生青色申告会の会合において、地域内の経済情勢などの情報交換の時間を新設し、今後の支援の方向性を検討する情報収集の場とする。

2. 経営指導員の資質向上に関すること

日本商工会議所が主催する経営指導員向け研修、各支援メニューの担当者向け研修への参加に加え、中小企業大学校の主催する中小企業支援担当者研修等の研修へ経営指導員などが年間1回以上参加する事で、従来の経営指導に必要な能力向上に加えて、新規事業・創業支援、海外展開支援、BCP、IT関連、販路拡大、財務診断などの小規模事業者が経営力向上する事を重視した支援能力の向上も図り、福井県商工会議所連合会が主催する経営指導員等研修会に参加することで、地域に密着した小規模事業者への支援ノウハウなどの支援能力向上を図る。

支援ノウハウなどを組織内で共有化するため、毎週の週初めの月曜もしくは火曜日の午前中に、「支援ノウハウ連絡会」を新たに開催し、組織内での情報の共有と、経営指導員等の支援ノウハウの共有を図り、若手経営指導員並びに補助員に対してベテラン経営指導員と支援の方向性や支援の仕方について指導、助言し、研修の場とする。

さらに、若手経営指導員並びに補助員と、ベテランの経営指導員とがペアを組んで小規模事業者を訪問し課題解決へ向けての指導助言を行うペア巡回をする事で、小規模事業者との繋がりを若手に伝承し、情報収集方法などを学ぶOJTによる伴走型支援能力の向上を図る。

3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

今回の経営発達支援計画の目標や事業内容について認定を得られた後は、武生商工会

議所ホームページ及び当所会報等を使用して地域内の小規模事業者に情報発信するとともに、本計画に記載の事業の実施状況並びに成果については、評価、検証するために以下の組織を立ち上げて、毎年度ごとに事業の実施状況、成果の評価並びに見直し案の検討協議を行う。

- ① 外部評価委員会を開催し、事業の実施状況、成果の評価並びに見直し案の提示を行う。

組織名：武生商工会議所経営発達支援委員会

委員構成（予定）

- ・ 福井県産業政策課の課長
- ・ 福井県立大学の教授
- ・ 仁愛大学の教授
- ・ 北陸税理士会武生支部の支部長
- ・ 連携していない外部の中小企業診断士等の専門家

- ② 外部評価委員による評価の結果を考慮し、武生商工会議所正副会頭会議並びに常議員会において報告し、方針を決定する。

- ③ 事業の成果・評価・見直しの結果については、議員総会に報告し承認を受ける。

- ④ 事業の期間中、会報等を使用して事業の実施状況を随時公表し、成果・評価・見直しの結果を武生商工会議所のホームページ（<http://www.takefucci.or.jp>）にて計画期間中公表する。

(別表 2)

経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(1) 組織体制

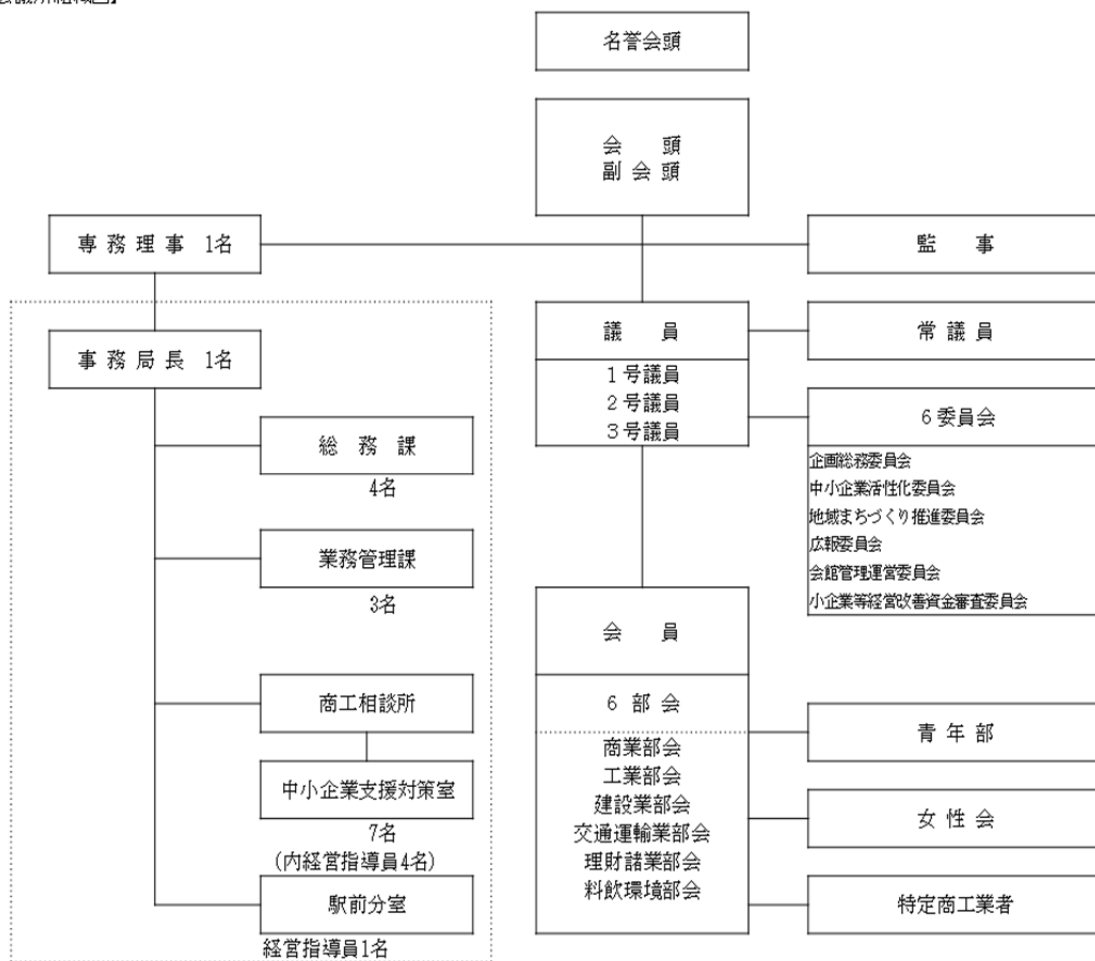
(27年1月現在)

経営発達支援事業は主に商工相談所にて担い、総務・業務管理は会員事業所に対する会員サービス事業などの経営発達支援事業を担う。

経営発達支援計画を確実に実施するために、商工相談所では中小企業支援対策室並びに中心市街地に配備している駅前分室の経営指導員との合計5名と、補助員3名とでセミナーの開催及び個社支援（専門家派遣 課題解決への相談応対等）を実施する。

【組織図】

【武生商工会議所組織図】



事務局体制及び事業推進体制：専務理事（常勤）以下 17 名

（事務局長 1 名、一般職員 7 名、経営指導員 5 名、補助員等 3 名）

(2) 連絡先

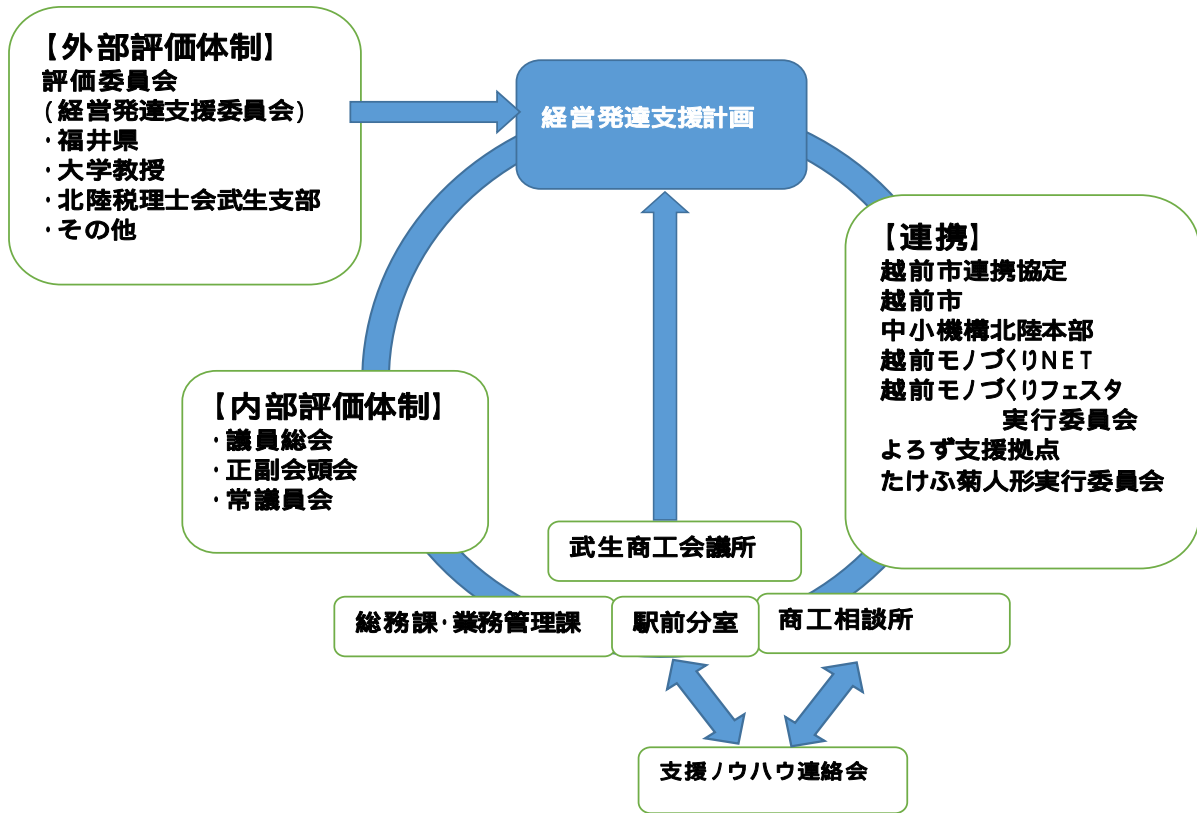
武生商工会議所 商工相談所 中小企業支援対策室

福井県越前市塚町 101 TEL0778-23-2020 FAX0778-23-4234

E-mail info@takefucci.or.jp

【経営発達支援事業実施連携組織図】

【経営発達支援事業実施連携組織図】



(別表 3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	27年度 H27年 4/1～ H28年 3/31	28年度 H28年 4/1～ H29年 3/31	29年度 H29年 4/1～ H30年 3/31	30年度 H30年 4/1～ H31年 3/31	31年度 H31年 4/1～ H32年 3/31
必要な資金の額	67,000	69,000	69,000	69,000	69,000
商工相談所 会計	67,000	69,000	69,000	69,000	69,000

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費、負担金、国補助金、福井県補助金、越前市補助金、事業受託費、事業負担金収入

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表 4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
連携組織 ・経営発達支援事業の内容 1.地域の経済動向調査に関する事 2.経営分析に関する事 3.事業計画の策定支援に関する事 4.事業計画策定後の実施支援に関する事 5.需要動向調査に関する事 6.新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事
連携者及びその役割
<p>○専門相談員 高度な専門課題に対応するための指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none">・(株)リテールサポート 中小企業診断士 津田 均 福井県福井市湊町 2-1802・佐治経営事務所 中小企業診断士 佐治眞吾 福井県福井市宝永 4-14-14・吉本総合労務管理事務所 特定社会保険労務士 吉本廣行 福井県越前市錦町 5-22・平崎特許事務所 弁理士 平崎彦治 福井県福井市大手 3-4-1・市川法律事務所 弁護士 市川亮平 福井県越前市蓬莱町 3-32・税理士法人武生中央会計 税理士 高嶋浩之 福井県越前市芝原 3-5-42 <p>○よろず支援拠点福井 高度な専門課題に対する指導助言</p> <ul style="list-style-type: none">・(公財)ふくい産業支援センター 理事長 伊藤恵造 福井県坂井市熊堂 9-7-1・福井県よろず支援拠点 福井県坂井市熊堂 9-7-1 <p>○大学 高度な技術系の専門課題に対する指導助言と技術・商品開発等に関する指導助言</p> <ul style="list-style-type: none">・福井大学 大学長 眞弓光文 福井県福井市文京 3-9-1・福井工業高等専門学校 校長 松田 理 福井県鯖江市下司町・福井工業大学 学長 城野政弘 福井県福井市学園 3 丁目 6-1 <p>○地域金融機関 支援対象企業の発掘や地域小規模事業者の金融状況等の情報の交換と支援課題の協議</p> <ul style="list-style-type: none">・日本政策金融公庫武生支店 支店長 大西俊典 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F・福井銀行武生支店 支店長 佐竹範之 福井県越前市蓬莱町 1-1

- ・北陸銀行武生支店 支店長 吉田政雄 福井県越前市蓬萊町 6-27
- ・福邦銀行武生支店 支店長 木下敏郎 福井県越前市天王町 3-33
- ・武生信用金庫本店 理事長 井上孝次 福井県越前市京町 1-5-27
- ・福井信用金庫 理事長 高橋俊郎 福井県福井市田原町 2 丁目 3-1

○越前市

支援メニューなどの支援策の情報提供および共有。地域内の各種統計情報の共有。

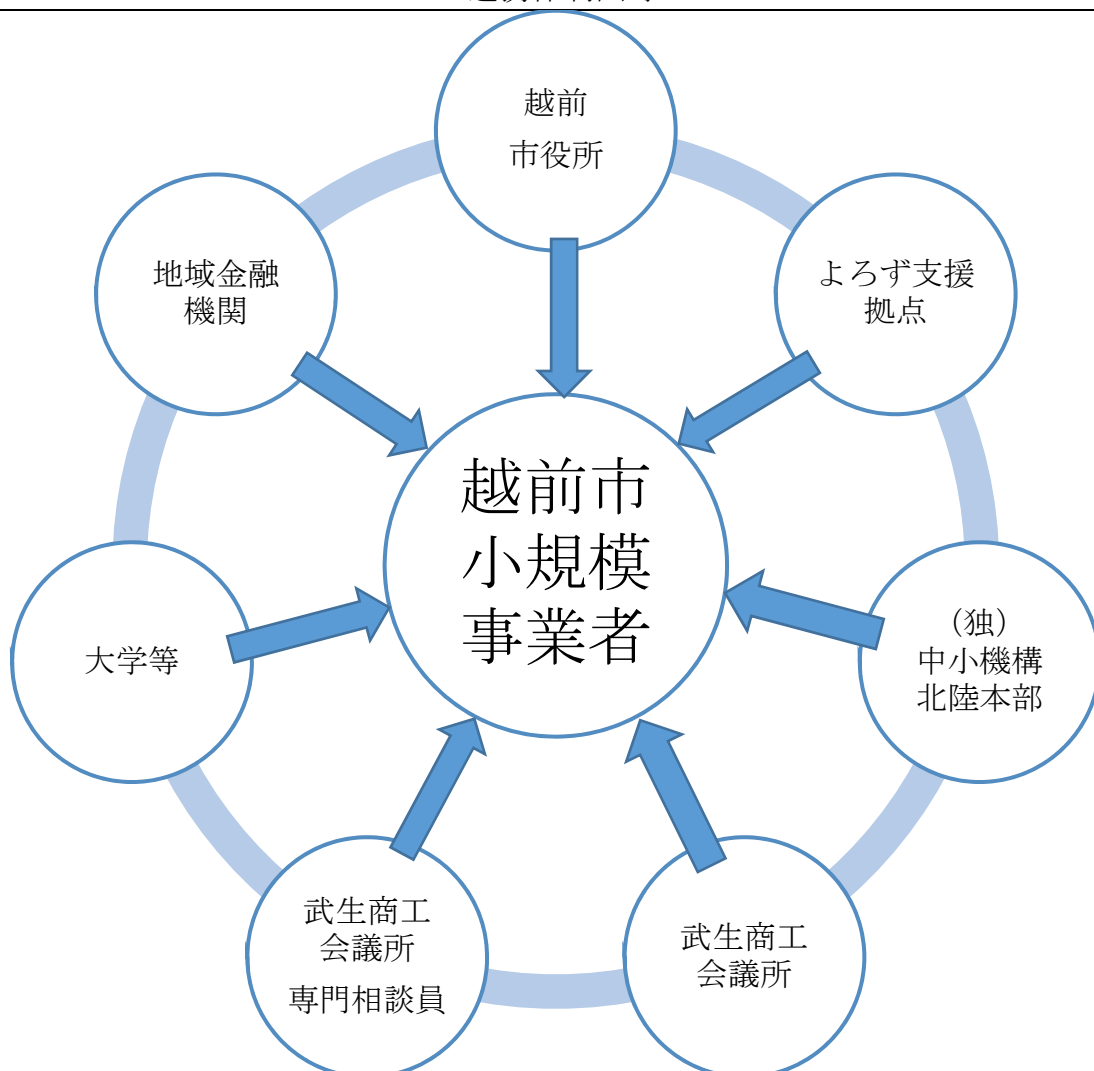
市長 奈良俊幸 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F 産業政策課

○（独立行政法人）中小企業基盤整備機構北陸本部

小規模事業者の課題解決のための専門家派遣、その他適切な支援メニューの指導助言

本部長 占部 治 石川県金沢市広岡 3-1-1 金沢パーク 10F

連携体制図等



(別表4)

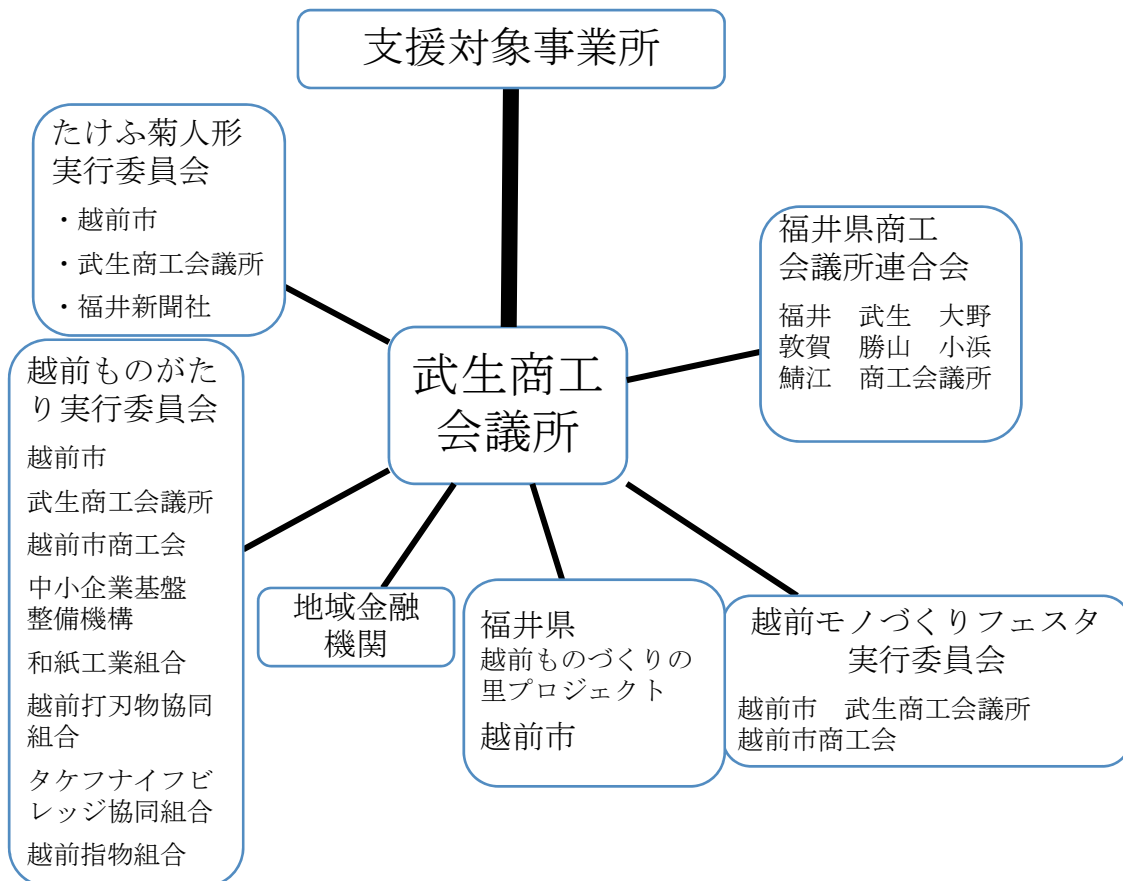
商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
連携組織 ・経営発達支援事業の内容 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事
連携者及びその役割
○越前モノづくりフェスタ実行委員会 実行委員長 三田村俊文 地域産業の振興発展と県内外へ紹介アピール、販路拡大につなげていく事業の実施と地域小規模事業の情報提供と情報の共有。 福井県越前市塚町 101
○越前ものがたり実行委員会 実行委員会会長 三村義雄 越前市内の小規模な製造業者同士のマッチング支援と、専門家による課題解決に向けた指導助言並びに販路開拓支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F
○たけふ菊人形実行委員会 実行委員会会長 三田村俊文 小規模事業者の地域外への食品、お菓子、伝統工芸品などの地場産品の販路開拓支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F
○福井県商工会議所連合会 会頭 川田達男 各種マッチング商談会 イベントの開催情報の提供と情報共有 福井県福井市西木田 2-8-1
○地域金融機関 各種マッチング商談会 イベントの開催情報の提供と情報共有
・日本政策金融公庫武生支店 支店長 大西俊典 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F
・福井銀行武生支店 支店長 佐竹範之 福井県越前市蓬萊町 1-1
・北陸銀行武生支店 支店長 吉田政雄 福井県越前市蓬萊町 6-27
・福邦銀行武生支店 支店長 木下敏郎 福井県越前市天王町 3-33
・武生信用金庫本店 理事長 井上孝次 福井県越前市京町 1-5-27
・福井信用金庫 理事長 高橋俊郎 福井県福井市田原町 2 丁目 3-1
○越前市 市長 奈良俊幸 主催事業に係る会議などの参画と実行支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F 産業政策課
○福井県 知事 西川一誠 県が実施するマッチング商談会開催情報の提供 福井県福井市大手 3-17-1
○越前モノづくりの里プロジェクト 伝統工芸である越前打刃物、越前和紙、越前箆 ^{たんす} をはじめ福井県内に点在する 5 つの伝統産業に対し、産地が連携して職人の育成や産地の魅力向上に取り組むことを支援

し、需要拡大を図る

福井県 知事 西川一誠 福井県福井市大手 3-17-1

連携体制図等



(別表 4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
連携組織 ・地域経済の活性化に資する取組
連携者及びその役割
<ul style="list-style-type: none"> ○越前市中心市街地活性化協議会 会長 山本仁左衛門 越前市中心市街地活性化に係る事業の計画立案並びに実行支援 福井県越前市塚町 101 ○株式会社まちづくり武生 取締役社長 山本仁左衛門 中心市街地での小規模事業者へ向けた空き店舗などの情報を収集し、創業希望者に対して情報提供する。また主催事業に係る会議などの参画と実行支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 ○越前市観光協会 会長 三村義雄 主催事業に係る実行支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F ○越前市 市長 奈良俊幸 主催事業に係る会議などの参画と実行支援 福井県越前市府中 1 丁目 2-3 センチュリープラザ 2 F 産業政策課
連携体制図等

(別表4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
連携組織 ・経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること
連携者及びその役割
○よろず支援拠点福井 高度な専門課題に対する指導助言 ・(公財)ふくい産業支援センター 理事長 伊藤恵造 福井県坂井市熊堂 9-7-1 ・福井県よろず支援拠点 コーディネーター 先織久恒 福井県坂井市熊堂 9-7-1
○大学 高度な技術系の専門課題に対する指導助言。技術系の情報相談。 ・福井大学 大学長 眞弓光文 福井県福井市文京 3-9-1 ・福井工業高等専門学校 校長 松田 理 福井県鯖江市下司町 ・福井工業大学 学長 城野政弘 福井県福井市学園 3丁目 6-1
○地域金融機関 地域小規模事業者の金融状況等の現況に関する情報の交換と、各機関が主催するセミナー商談会などの情報提供と共有。 ・日本政策金融公庫武生支店 支店長 大西俊典 福井県越前市府中 1丁目 2-3 センチュリープラザ 2F ・福井銀行武生支店 支店長 佐竹範之 福井県越前市蓬萊町 1-1 ・北陸銀行武生支店 支店長 吉田政雄 福井県越前市蓬萊町 6-27 ・福邦銀行武生支店 支店長 木下敏郎 福井県越前市天王町 3-33 ・武生信用金庫本店 理事長 井上孝次 福井県越前市京町 1-5-27 ・福井信用金庫 理事長 高橋俊郎 福井県福井市田原町 2丁目 3-1
○越前市 市長 奈良俊幸 支援メニューなどの支援策の情報提供、支援ノウハウや情報の共有。 福井県越前市府中 1丁目 2-3 センチュリープラザ 2F 産業政策課
○福井県商工会議所連合会 会頭 川田達男 支援メニューなどの支援策のノウハウや情報の共有。 福井県福井市西木田 2-8-1
○武生青色申告会 会長 宗倉 稔 支援対象企業の発掘と地域内小規模事業者の現況に関する情報交換 福井県越前市塚町 101

連携体制図等

